

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美術工芸大学の 創造力を、 あなたの事業に お役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などとの連携活動を推進しています。

POLICY 理念

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

SYSTEM 活動体制

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

研究制度

共同研究

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

受託研究

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

研究体制

プロジェクト型（課外活動型）

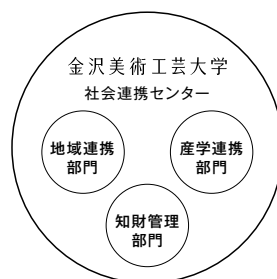
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

プロフェッショナル型

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

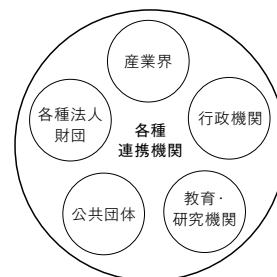
NETWORK 社会連携

他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



共同研究
委託研究

情報提供
情報交流



FLOW 活動の流れ

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

■商品の企画・開発にデザインを利用したい

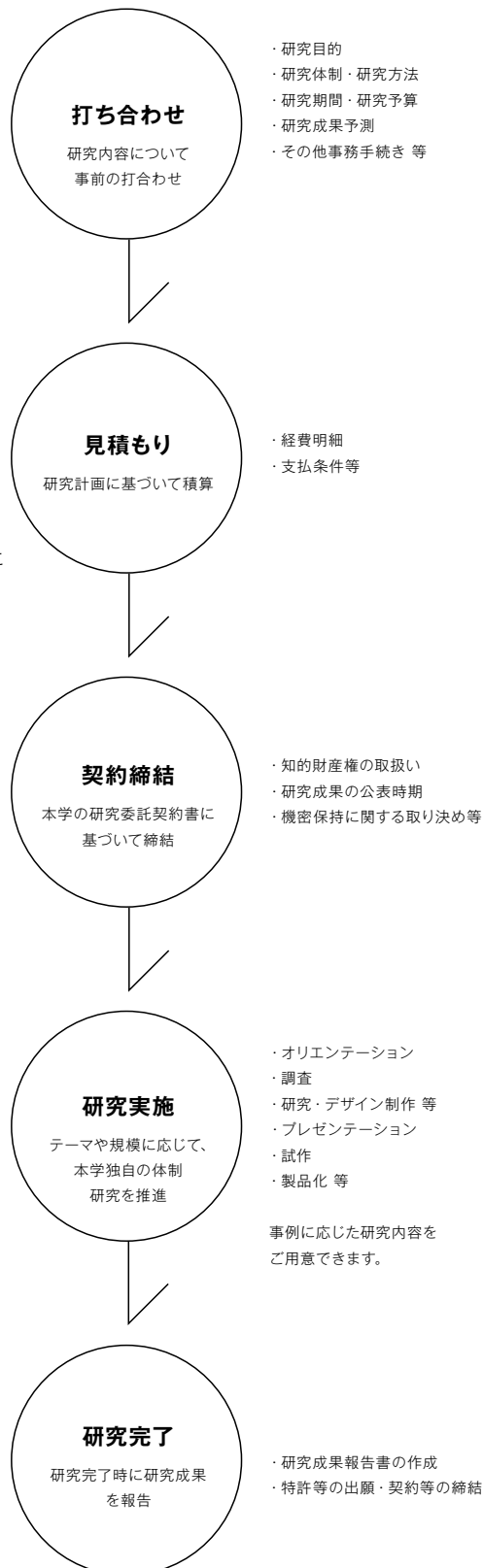
■CI・ブランド開発にデザインを活用したい

■マーケティングにデザインを活用したい

■店舗・施設の開発にデザインを活用したい

■伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい

■美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



FIELD 活動領域

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

美術系

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

デザイン系

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

工芸系

陶磁 / 漆・木工 / 鋳金・彫鍛金 / 染・織

専門領域分野

ヴィジュアルコミュニケーション
広告デザイン
サインデザイン
映像・メディアデザイン
Web デザイン
パッケージデザイン
ユニバーサルデザイン
インターフェイスデザイン
情報機器デザイン
輸送機器デザイン
家具デザイン
生活関連用品デザイン
都市計画デザイン
建築デザイン
インテリアデザイン
ディスプレイデザイン
ランドスケープデザイン
ファッションデザイン
テキスタイルデザイン
陶芸
漆芸
木工
彫鍛金
鋳金
染織
モニュメント
壁画
材料・修復

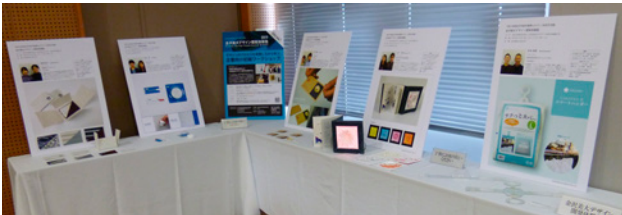
過去 8 年間の社会連携研究数

年 度	総 数	地域連携事業	産学連携事業	連携協定事業
2012 (H24)	31	17	14	
2013 (H25)	49	32	17	
2014 (H26)	46	27	19	
2015 (H27)	34	18	16	
2016 (H28)	34	16	11	7
2017 (H29)	33	11	16	6
2018 (H30)	32	21	8	3
2019 (R1)	29	13	11	5
計	288	155	112	21

※報告書掲載数は複数年に渡る事業も含む。



マッチングハブ金沢 2019 出展
北陸先端科学技術大学院大学・産学官連携本部
2019 年 11 月 12 日 ANA クラウンプラザホテル金沢



「金沢美大デザイン開発体験塾」展示



金沢市産学交流ものづくり技術交流塾 参加
金沢市産学連携事業運営委員会
2019 年 11 月 27 日 IT ビジネスプラザ武蔵

128 >> 140

128	金沢マラソン 2019 完走メダルデザイン制作	6
129	かなざわ時計	7
130	歩けるまちアートベンチプロジェクト 「かなざわ道の船」 ～ベンチのデザイン制作と情報発信、継続事業～	8
131	いしかわ SDGs 推進プロジェクトに係る ロゴマークデザイン制作	9
132	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 26 回 光の回廊シリーズ (その 11) 「月面旅行」	10
133	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 27 回 第 8 回ホスピタルギャラリー 病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」	11
134	みんなの思い出 黒板アート	12
135	加賀ロレーヴ国際大会 2019 ポスターデザイン制作	13
136	JAPAN TENT T シャツ・広報物デザイン	14
137	かなざわエコフェスタ 2019 出展事業	15
138	屏風パネルのリニューアルに向けたデザイン提案	16
139	まちかど思い出ピアノ 装飾デザイン制作業務	17
140	石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」ならびに「ハンズオン展示体験学習」	18

128

金沢マラソン 2019
完走メダルデザイン制作

5回目となる金沢マラソン 2019。金沢の魅力が満喫できるフルマラソンとして大変人気の高い大会として定着してきた。また、出走可能時間が7時間と長いため、完走率が非常に高いことも大きな特長となっている。

その完走者に贈る完走メダルのデザインを、初回大会から続けてデザイン提案させていただき、ランナーからも大変好評となっている。完走メダルには、金沢らしいオリジナリティあるデザインが求められ、今回は5回目の節目の年ということで、これまでと少し変化のあるデザインが期待された。最終選考されたのは、藤島佳那子さんの作品で、コンセプトは、金沢の伝統工芸品として有名な「金箔」と、人と人をつなぐ「水引」、お祝いの意味を持つ「梅」に加え、古くから格式高く特別な色とされてきた「群青色」を組み合わせ、節目にふさわしい新しさの表現ができた。メダルは、完走したランナー 13,756 人に配布された。完走率は 96.5%



アイデア発表会



最終プレゼンに参加したメンバー

【委託者】

金沢市 文化スポーツ局
金沢マラソン推進課

【期間】

2019年2月～10月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

上山 夏樹	製品デザイン専攻3年
澤本 泉美	製品デザイン専攻3年
篠崎 翔平	製品デザイン専攻3年
菅沼 佑哉	製品デザイン専攻3年
富田 文香	製品デザイン専攻3年
野副 双葉	製品デザイン専攻3年
藤島 佳那子	製品デザイン専攻3年
堀口 真緒	製品デザイン専攻3年
水野 和真	製品デザイン専攻3年
和田 さつき	製品デザイン専攻3年

【開発日程】

2019年

2月8日	オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明
4月24日	学内アイデア検討会
4月26日	アイデア発表会 (美大第一教室)
5月8日	アイデア選考結果通知 (5案に絞られる)
5月下旬～6月	アイデアブラッシュアップ モックアップモデル制作
6月10日	選考案5案をプレゼンテーション(市役所)
6月下旬	最終選考案決定通知
7月	図面データ提出、CMF指示
8月～9月	量産デザインフォロー
10月15日	市長への試作品完成報告・ 記者発表
10月27日	金沢マラソン大会開催 完走者にメダルを配布する ボランティアに参加

デザインを手がけた藤島佳那子さん
(市長への完成報告会)

完走メダル配布ボランティアに参加

金沢市役所前の大型サイネージにて、学生の制作した時刻をお知らせする映像が毎時きっかりに流れる。映像は20秒ほどで、20パターン（学生の人数分）が繰り返し放映される。映像は必ず開始10秒で時刻を表す数字が出現するようにデザインされている。

かなざわ時計



屋外にて講評の様子



学生の制作した作品

[委託者]	
金沢市 都市政策局 広報広聴課	
[期間]	
2019年4月～12月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
下浜 臨太郎 講師 デザイン科視覚デザイン専攻	

[参加学生]	
井手 美月	視覚デザイン専攻2年
岩崎 菜々子	視覚デザイン専攻2年
岩田 章之介	視覚デザイン専攻2年
浦田 朋佳	視覚デザイン専攻2年
表 千聖	視覚デザイン専攻2年
親衛 雄行	視覚デザイン専攻2年
加納 楓花	視覚デザイン専攻2年
日下部 綾音	視覚デザイン専攻2年
坂本 あゆみ	視覚デザイン専攻2年
笹岡 芳成	視覚デザイン専攻2年
佐藤 柚花	視覚デザイン専攻2年
澤田 麻由子	視覚デザイン専攻2年
田嶋 千寛	視覚デザイン専攻2年
田中 愛子	視覚デザイン専攻2年
出口 遥菜	視覚デザイン専攻2年
原嶋 妙英	視覚デザイン専攻2年
原田 紗矢香	視覚デザイン専攻2年
細江 美結	視覚デザイン専攻2年
山根 萌花	視覚デザイン専攻2年
脇田 彩花	視覚デザイン専攻2年

[開発日程]	
ワークショップ	
2019年4月14日～5月22日	
4月12日	練習制作ワークショップ01
4月15日	練習制作ワークショップ02
4月19日	時報制作開始
5月22日	時報プレゼンテーション
放映期間	
2019年6月10日～12月31日	

130

歩けるまちアートベンチプロジェクト 「かなざわ道の船」 ～ベンチのデザイン制作と情報発信、継続事業～



上：橋場丸 左下：本町丸 中央：兼六丸 右下：香林坊丸 アトリオ



設置場所下見



1/1 プロトタイプ試作 デザイン・座り心地検討

[委託者]

金沢市 都市政策局
歩ける環境推進課
交通政策課

[期間]

2019年4月～9月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

プロジェクト全体監修／ベンチデザイン担当
根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻
スマートフォンサイトデザイン監修
村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

ベンチ 1/1 プロトタイプ 制作担当

江里口 裕紀 大学院修士課程デザイン専攻
製品デザインコース1年

ベンチ 1/1 プロトタイプ 3DCG 制作担当

都筑 亮志 大学院修士課程デザイン専攻
製品デザインコース1年

スマートフォンサイト デザイン担当

渡邊 奈々重 大学院修士課程デザイン専攻
製品デザインコース2年

[参加企業]

株式会社 山岸製作所 ベンチ設計、
スケジュール監修担当

株式会社 中東 ベンチ本体制作担当

有限会社 前田石材 ベンチ脚制作担当

株式会社 ビルドランド ベンチ本体塗装担当

株式会社 エイブルコンピュータ
スマートフォンサイト
実装担当

[開発日程]

2019年

4月25、26日

設置場所下見、打ち合わせ

6月17日

ベンチ、スマートフォンサイト
デザイン確認

6月24日

設置現場にて、1/1 プロトタイプ
試作デザイン検討

8月6日

1/1 現物試作、スマートフォン
サイト確認

8月8日

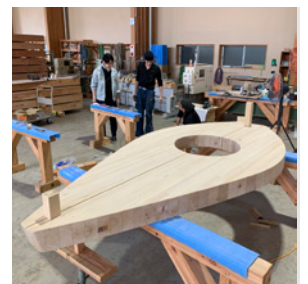
ベンチ設置、スマートフォンサ
イト開設 (5箇所中4箇所)

8月17日

1/1 現物試作、スマートフォン
サイト確認

9月19日

ベンチ設置、スマートフォンサ
イト開設 (残り1箇所)



ベンチ 1/1 本体製作風景 (橋場丸)



早朝クレーンによる設置 (香林坊丸アトリオ)

131

いしかわ SDGs 推進プロジェクトに係る
ロゴマークデザイン制作

2015 年の国連サミットで採択された 2030 年までの国際目標であり、17 のゴール・ターゲットから構成される「SDGs（持続可能な開発目標）」について、石川県においても取り組みを活発化させ、石川県全体で取り組んでいく運動体を目指し「いしかわSDGs宣言」を行う、そのシンボルとなるロゴマークを作成した。

コンセプトは、石川県の i、SDGs の S、鯉起こしをイメージした雷型、3 つのポイントをアイデンティティとして、すぐにでも行動ができる、疾走感のあるデザインとした。



ISHIKAWA SDGs

メインロゴマーク



ロゴマーク展開

【委託者】

株式会社 北国新聞社

【期間】

2019 年 4 月—7 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

竹内 彰太郎 視覚デザイン専攻 4 年

【開発日程】

2019 年

- 4 月 19 日 オリエンテーション
- 4 月 22 日 デザイン案検討開始
- 5 月 20 日 デザイン案プレゼンテーション
- 5 月 27 日 デザイン案決定、デザイン修正
- 6 月 12 日 最終データ納品
- 6 月 22 日 いしかわ SDGs シンポジウム開催



プレゼンテーションする竹内君

132

ホスピタリティアート・プロジェクト 第26回 光の回廊シリーズ(その11) 「月面旅行」

「ホスピタリティアート・プロジェクト」は、金沢市立病院と本学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。プロジェクト第26回の企画となる、今年度の「光の回廊シリーズ～その11」ワークショップ・展示は、「月面旅行」と題し実施された。病院1階待合ホール大ガラスに患者、医療者、学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、夏の恒例行事として病院関係者および周辺地域に受け入れられている。図案会議に始まり、大学での下準備、ワークショップ、展示、撤収に至るまでを無事に終えることができた。このプロジェクトは医療環境に彩りの空間を現出させ、通院・入院患者、医療関係者の日常に癒しの効果を与えている。重要なことは、ワークショップにより患者、医療関係者、協力学生が同じ視点で時間を共有することで現出するコミュニケーションの有り様である。プロジェクトを成功裏に終えることができた要因は、美大と市立病院との連携もさることながら、協力学生の献身的な作業に依るところが大きい。



光の回廊



大学での原寸大下絵制作



市立病院でのステンドグラス制作

[委託者]	
金沢市立病院	
[期間]	
館内制作 2019年8月18日—20日	
ワークショップ 2019年8月20日 13:00—16:00	
館内展示 2019年8月20日—9月12日	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
三浦 賢治 教授	美術科油画専攻 ホスピタリティアート・ コーディネーター
岩崎 純 准教授	美術科油画専攻
横川 善正 名誉教授	金沢市立病院 ホスピタリティアート・ プロジェクト顧問

[参加学生]	
青山 啓佑	油画専攻1年
高山 桃歌	油画専攻1年
米田 麻衣	油画専攻1年
麦谷 真緒	日本画専攻1年
伊藤 聡美	芸術学専攻1年
伴 彩寧	芸術学専攻1年
藤田 真央	芸術学専攻1年
安野 花菜	芸術学専攻1年
沖館 佳奈	日本画専攻2年
石田 彩夏	油画専攻3年
犬飼 好美	油画専攻3年
小佐井 あかね	油画専攻3年
合田 果帆	油画専攻3年
遠矢 実樹	油画専攻3年
橋本 由衣	油画専攻3年
山田 美智子	油画専攻4年
伊藤 真里奈	油画専攻4年
塚原 由子	油画専攻4年
南 唯乃	油画専攻4年
棚部 芹	修士課程絵画専攻油画1年
四本 優奈	修士課程絵画専攻油画1年

[開発日程]	
2019年	
6月28日	第1回企画会議(テーマ会議)
7月31日	材料確認、発注
8月9日	「HAP Tシャツ」完成、 図案決定
8月13日～15日	大学での制作、下準備(ワーク ショップ材料・セロファンバ ーツ)
8月中旬	市の広報にお知らせ (市立病院発信)
8月17日	脚立、足場の資材を病院に 搬入、設置
8月18日	9:45～17:00 市立病院に集合、ガラスシート 張り替え、カラーセロファンに よる大ガラスの装飾開始
8月19日	9:30～17:00 ステンドグラス制作
8月20日	9:30～17:00 ステンドグラス制作 13:00～16:00 ワークショップを経て完成
9月12日	15:00～撤収 (セロファン剥がし、資材搬出)



患者さんとワークショップ



制作、ワークショップ

133

ホスピタリティアート・プロジェクト 第27回 第8回ホスピタルギャラリー 病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」



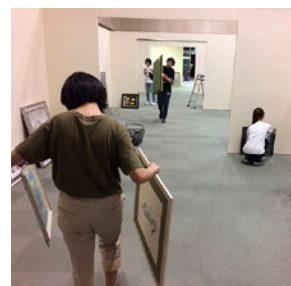
【委託者】	
金沢市立病院	
【期間】	
ギャラリー開催 2019年9月14日—16日 9:30—17:00 ギャラリートーク 9月16日 15:30—17:00	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
三浦 賢治 教授	美術科油画専攻 ホスピタリティアート・ コーディネーター
岩崎 純 准教授	美術科油画専攻
横川 善正 名誉教授	金沢市立病院 ホスピタリティアート・ プロジェクト顧問

【参加学生】	
第8回展ポスター、DM、フライヤー制作	
石田 彩夏	油画専攻3年
橋本 由衣	油画専攻3年
設営	
米田 麻衣	油画専攻1年
麦谷 真緒	日本画専攻1年
安野 花菜	芸術学専攻1年
伊藤 聡美	芸術学専攻1年
伴 彩寧	芸術学専攻1年
藤田 真央	芸術学専攻1年
石田 彩夏	油画専攻3年
伊藤 真里奈	油画専攻4年
南 唯乃	油画専攻4年
棚部 芹	修士課程絵画専攻油画1年
館田 美玖	修士課程絵画専攻油画1年
撤収	
米田 麻衣	油画専攻1年
麦谷 真緒	日本画専攻1年
藤田 真央	芸術学専攻1年
犬飼 好美	油画専攻2年
石田 彩夏	油画専攻3年
伊藤 真里奈	油画専攻4年

平成21年度より金沢市立病院と本学との連携のもと取り組んできたホスピタリティアート・プロジェクト(HAP)の一環として、病院がより市民の方々に身近な施設となるための「市民がつくる安らぎの医療」をメインテーマに、平成24年度よりホスピタルギャラリーを開催している。第8回となる本展においても、市民、患者、看護師、登録医、介護施設などから募り、作品募集テーマ「安らぎのいろ・かたち・味わい」の趣旨に賛同して集まった絵画、彫刻、書、手芸、工芸等の160点余の作品群によって、病院の待合いホールには3日間限定の美術館とも言える展示空間が創出された。最終日には市民アドバイザーや出品者によるギャラリートークも行われ、中秋の市立病院待合ホールには和やかなコミュニケーション空間が紡ぎ出された。

市の中心から離れた病院という特殊な地理的環境にありながら、3日間の会期中1000人を超える来場者を数えた。美大関係者のみならず、行政、病院の医師、看護師も一体となって展覧会の運営に積極的に携わる点において、全国的に見ても希な取り組みであると言える。

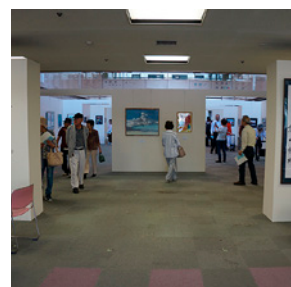
金沢市立病院スタッフ ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー	
院長	高田 重男
副院長	横川 由起子
医 局	瀬野 晶子 杉山 有
看護部副部長	中町 麻紀子
看護部	坂不田 照美 坂尻 裕子 高山 綾 瀬戸 莉奈 西野 実奈 中島 大志郎 吉田 泉稀 安土 佳宏
放射線室副室	築田 礼
臨床検査室	中島 孝
リハビリテーション室	小路 晃平
薬剤室	榎原 萩子
栄養管理室	割田 隆之
事務局長	大和 裕紀 越原 智弘 乙村 洸太郎
市民アドバイザー	富地 晃裕 野川 勝紀 駒井 順子 石川県済生会金沢病院 ホスピタルアート・コーディネーター



会場風景



会場風景



会場風景



会場風景

【開催日程】	
2019年	
5月30日	ホスピタリティアートプロジェクト合同会議
6月26日	企画会議
7月2日～5日	ポスター、作品募集要項、DM入稿・印刷
7月8日	ポスター、DM、作品募集要項納品
7月9日～8月16日	作品募集、申し込み
8月7日	展覧会フライヤー入荷
9月2日～12日	作品搬入、受付
9月11日	ギャラリー開催案内(新聞広報、記事提供、FB)
9月13日	設営、展示作業、展覧会日録入荷
9月14日～16日	ギャラリー開催
9月16日	撤収、作品返却

134

みんなの思い出 黒板アート

本プロジェクトは、黒板アートの公開制作及び展示、黒板に描かれた作品を消して締めくくるまでの一連の美術活動によって、金沢の活性化に貢献するものである。閉校になった材木町小学校の黒板を3面横並びに、金沢駅地下広場に設置し、そこで石川県立金沢桜丘高等学校と本学との合同グループが実施した。

黒板による画面の大きさは縦1.2m×横10.8mである。そこに描かれた主題は、金沢の歴史や歳時、文化にまつわる人物像や観光名所、特産物などである。市民の皆様には地元への愛着と再発見を、観光に訪れた方々には金沢の魅力とともに学生たちの姿から元気な頼もしさも届けられた。



(第1期) 完成



(第2期) 制作風景

【委託者】 金沢市 文化スポーツ局 文化政策課
【期間】 「金沢今昔行列絵巻」 金沢美術工芸大学 2019年9月—10月 「金沢カラフル」 桜丘高等学校・金沢美術工芸大学 合作 2019年12月
【研究体制】 プロジェクト型
【担当教員】 岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】 【第1期】 棚部 芹 修士課程絵画専攻油画1年 舘田 美玖 修士課程絵画専攻油画1年 富崎 美結 修士課程絵画専攻油画1年 長尾 柚香 修士課程絵画専攻油画1年 【第2期】 沓掛 千夏 油画専攻1年 齋藤 千嘉 油画専攻1年 棚部 芹 修士課程絵画専攻油画1年 舘田 美玖 修士課程絵画専攻油画1年

【開発日程】 2019年 8月21日 学内にてプロジェクト内容確認 打ち合わせ 9月25日～10月1日 制作（金沢美術工芸大学） 10月1日～8日 展示 10月8日 黒板消し 11月17日 桜丘高等学校・金沢美術工芸 大学合同会議 12月9日～15日 制作（桜丘高等学校・金沢美 術工芸大学合作） 12月16日～22日 展示 12月23日 黒板消し
--



(第2期) 制作風景



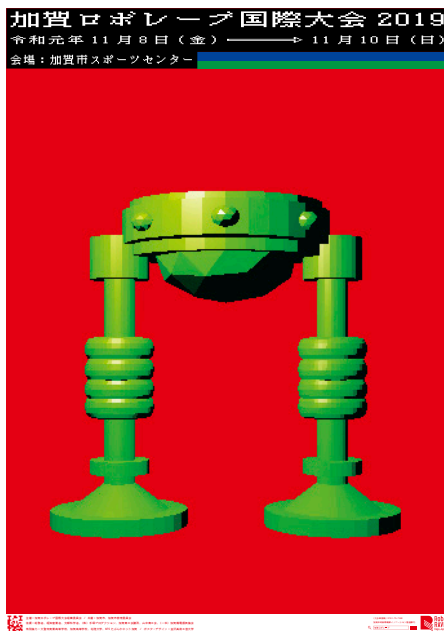
(第2期) 完成

135

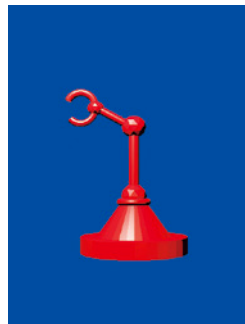
加賀ロボレーヴ国際大会 2019
ポスターデザイン制作

加賀市役所より、これまで開催されているポスターとは違った、子どもの科学とものづくりへの興味・関心を高めるとともに、海外の子どもたちとの交流をテーマとした斬新なポスター制作を依頼され、同じテーマで3年間使用できるバリエーションも合わせて提案を求められた。

ロボットのパーツをモチーフに、カラーリングも毎年変化させる提案を行い、小中学校、高校の学内で掲示されても他のポスターより目に入るデザイン提案をおこなった。



2019年



2020年



2021年



大会画像



大会エンディング画像

【委託者】

加賀市役所政策戦略部
イノベーション推進課
ロボレーヴジャパン
国際ロボット大会推進委員会

【期間】

2019年6月—9月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

竹内 彰太郎 視覚デザイン専攻4年

【開発日程】

2019年

6月17日 オリエンテーション
6月20日 デザイン案検討開始
7月15日 デザイン案プレゼンテーション
7月22日 デザイン案決定、
データ修正作業
7月31日 最終データ納品
8月21日 加賀市役所プレス発表
11月8日 加賀ロボレーヴ国際大会
2019開催

136

JAPAN TENT Tシャツ・広報物デザイン



留学生用



ホストファミリー用

8月22日から28日まで開催された「第32回 JAPAN TENT- 世界留学生交流・いしかわ2019」で、参加者が着用したTシャツデザイン制作を昨年に引き続きおこない、視覚デザイン専攻4年生、岡川さんのデザイン案が採用された。

デザインコンセプトは、世界中から金沢へ日本の文化を学びに来る学生さんたちが、実際にどのような文化体験ができるのかをジャパンテントのロゴマークの中に表現している。

開催中、留学生はオレンジ色、ホストファミリーは水色のTシャツを着て連帯を深めた。



デザインに参加した学生



歓迎式典

【委託者】
JAPAN TENT 開催実行委員会
【期間】
2019年6月～9月
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
岡川 由衣 視覚デザイン専攻4年
大賀 愛子 視覚デザイン専攻4年
若尾 陸利 視覚デザイン専攻4年

【開発日程】
2019年
6月18日 オリエンテーション デザイン案検討開始
7月12日 プレゼンテーション1回目 (デザイン案絞り込み)
7月24日 プレゼンテーション2回目 (詳細確認) 最終案決定
7月30日 最終データ納品
8月22日 JAPAN TENT 歓迎式典にて Tシャツ配布
8月28日 JAPAN TENT さよならセレモニー



ホストファミリーとの交流



さよならセレモニー

137

かなざわエコフェスタ 2019 出展事業

視覚デザイン専攻1年生の使用済みダンボールを使つての作品制作は今回で23年となる。初年度である1997年はまぐれで素敵な作品ができたのだらうと思っていたが、2年目に制作した時、これはまぐれでは無いはっきりとメッセージのある立派なアート作品だと思い3年目からは学内の展示ホールで展示し始めた。当時、制作は机の上に収まらず、教室から廊下へ侵食し始めた。迷惑千万とお叱りを受け1部屋を借りて制作し展示することができるようになった。そこは本学内の集会ホールでした。その後、アートベース石引に制作展示を移動することができた。十数年も続けているとTV-CMのように時代を写す鏡の様な作品が次々に出てきた。展示を続けていくうち金沢市からエコに関するイベントが企画されこのダンボール作品を金沢芸術村に展示していただく様になった。5年前から新幹線が開業した金沢駅東もてなしドーム地下広場で展示をさせていただく様になり、首都圏はもとより日本全国、世界から訪れる方々に本学の視覚デザイン1年生の存在を知っていただく発信の場所ともなっている。



ワークショップ



【委託者】

金沢市 環境局 温暖化対策室

【期間】

2019年7月～12月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

荒井 涼香	視覚デザイン専攻1年生
池田 楓太	視覚デザイン専攻1年生
石井 美優	視覚デザイン専攻1年生
伊藤 愛理	視覚デザイン専攻1年生
伊藤 さと	視覚デザイン専攻1年生
植木 鼓	視覚デザイン専攻1年生
江森 敬大	視覚デザイン専攻1年生
尾田 智恵美	視覚デザイン専攻1年生
甲佐 優莉佳	視覚デザイン専攻1年生
古家後 はるか	視覚デザイン専攻1年生
永田 幸	視覚デザイン専攻1年生
根上 大成	視覚デザイン専攻1年生
東 百合恵	視覚デザイン専攻1年生
松本 梓	視覚デザイン専攻1年生
三橋 洋斗	視覚デザイン専攻1年生
宮上 聖菜	視覚デザイン専攻1年生
山元 太陽	視覚デザイン専攻1年生
山本 千穂	視覚デザイン専攻1年生
行本 美晴	視覚デザイン専攻1年生
米原 泰衣	視覚デザイン専攻1年生

【開発日程】

2019年

7月3日 オリエンテーション

7月23日～8月1日

アートベース石引にて制作

8月2日 プレゼンテーション

8月3、4日

石引夏祭中展示

8月4日 撤収 美大に保管

11月9日 金沢駅東もてなしドーム地下
広場に搬入11月10日 展示とワークショップ
撤収後、戸室リサイクルプラザ
に再展示

138

屏風パネルのリニューアルに向けた デザイン提案



最終デザイン

[委託者]

金沢箔技術振興研究所

[期間]

2019年7月—2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

椿山 信太

環境デザイン専攻1年

深田 詩織

環境デザイン専攻1年

木下 佑樹

環境デザイン専攻3年

下尾 春花

環境デザイン専攻3年

[開発日程]

2019年

- 7月26日 金箔制作見学&金箔体験
- 7月30日 学内打ち合わせ
- 8月2日 学内打ち合わせ
- 8月9日 第1回スタッフミーティング
中間プレゼンテーション1
- 10月25日 第2回スタッフミーティング
中間プレゼンテーション2
- 12月13日 第3回スタッフミーティング

2020年

- 1月7日 第4回スタッフミーティング
- 2月10日 第5回スタッフミーティング
最終デザイン確認
- 3月16日 第6回スタッフミーティング



金箔体験



中間プレゼンテーション1



中間プレゼンテーション2



試作確認

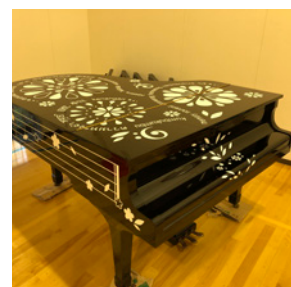
139

まちかど思い出ピアノ
装飾デザイン制作業務

これまで、片町きらら広場に音符に見立てた大小の花びらを描いた1台、金沢駅もてなしドーム地下広場に伝統工芸の水引と五線譜を組合わせた1台、金沢駅西口広場に植物をモチーフにデザインした1台のデザインを制作してきた。片町きらら広場のピアノが故障したため、商店街からの希望もあり、市民に親しまれていた当初のデザインでリニューアルして設置した。



制作途中（シート貼り付け）



制作途中（シート貼り付け完成）

【委託者】

金沢市 文化スポーツ局 文化政策課

【期間】

2019年7月—9月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

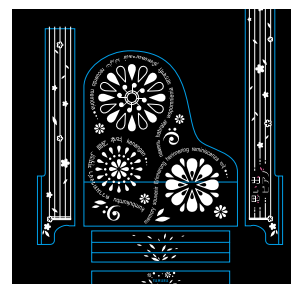
河善 ひかり

視覚デザイン専攻4年

【開発日程】

2019年

- 7月2日 オリエンテーション
- 7月22日 ピアノ採寸確認、データ修正
- 8月15日 デザインデータ納品
- 9月11日 思い出ピアノ施工
- 9月26日 思い出ピアノ設置



デザイン全体

140

石川県立盲学校 「触れてみる彫刻展」ならびに 「ハンズオン展示体験学習」

本展覧会は視覚に障害がある児童生徒の身近な場所に彫刻作品を展示することで、時間をかけてゆっくりと作品を鑑賞する機会を設けることを目的とし、石川県立盲学校の文化祭を挟んだ時期に、本学彫刻専攻の学生の作品を展示するものである。

この展覧会は平成19年度から毎年開催しており、継続的に取り組むことで、視覚に障害がある児童生徒も鑑賞力が向上し、美術に親しむよい機会となっている。最終日には交流会として児童生徒と作者の学生が一堂に会し、作者の作品に込めた思いを聞くことで一層作品に対する理解を深めている。

また、本年より玄関に常設されている「触れてみる彫刻コーナー」において、本学の学芸員資格取得を目指す学生を対象に、ハンズオン展示の体験学習に協力をいただいた。体験を通し博物館・美術館のバリアフリー化の現状や、ユニバーサル・デザイン、ユニバーサル・ミュージアムなどの考え方とその重要性を考える機会を得ることができた。



交流会



ハンズオン展示体験学習



交流会

【委託者】
石川県立盲学校
【期間】
2019年5月—11月
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
「触れてみる彫刻展」
石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻
「ハンズオン展示体験学習」
渋谷 拓 准教授 一般教育等

【参加学生】
「触れてみる彫刻展」
関谷 留生 彫刻専攻1年
窪地 朝香 彫刻専攻1年
佐々木 有華 彫刻専攻2年
川口 貴一 彫刻専攻2年
橋川 みらの 彫刻専攻2年
塚本 涼子 彫刻専攻3年
大野 紗月 彫刻専攻4年
高橋 未優 彫刻専攻4年
水野 由羅 彫刻専攻4年
伊藤 呼春 修士課程彫刻専攻2年
「ハンズオン展示体験学習」
博物館教育論受講者

【開発日程】
2019年
「触れてみる彫刻展」
5月10日 盲学校江川校長、大谷教諭 依頼挨拶および打ち合わせ
8月6日 日程調整
9月6日 金沢彫刻祭にて 作品候補リストアップ
10月1日 展示作品決定 出品者に解説文の作成を依頼
10月23日 作品搬入・展示
10月24日～11月11日 作品展示
11月11日 美大生と児童生徒の交流会・ 搬出作業
11月15日 出品作より盲学校玄関に彫刻 2点常設展示（1年間貸与）
「ハンズオン展示体験学習」
7月19日 「触れてみる美術コーナー」 体験の依頼
7月30日 「触れてみる美術コーナー」で のハンズオン体験学習ならび に校内施設見学



交流会



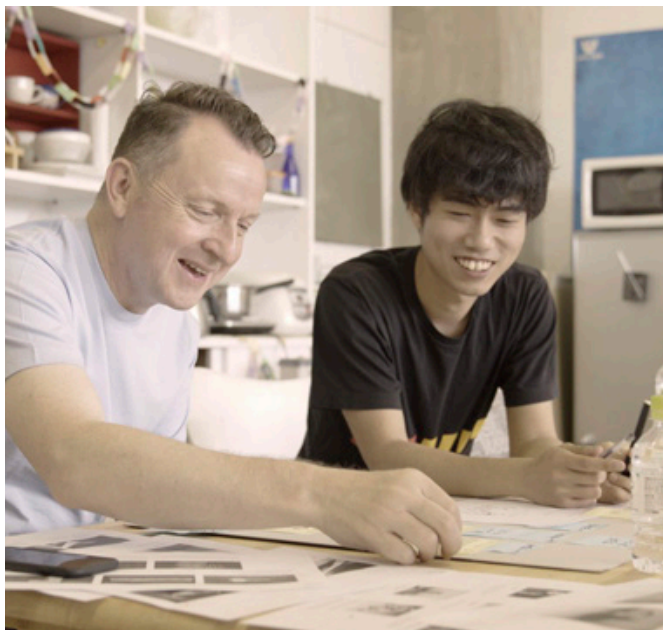
校内施設見学

122 ➤➤ 132

122	「これからのエンターテインメント」 新しい感性によるエンターテインメント提案	20
123	大切な写真に写るスズキの1台	21
124	KKR ホテル金沢 ーホワイトロード空間演出計画ー	22
125	建築部材としての利用を前提とした 有孔折板のデザイン開発	23
126	住宅における臭いや菌に関する 製品・システムの提案	24
127	新しい価値を持ったメガネフレームのデザイン研究 美大メガネ部活動としての連携事業	25
128	中学校技術科教材のデザイン研究	26
129	真空成形の技術を使った 新たなユニバーサルデザイン容器の研究	27
130	石巻レインボーハウス ワークショップのデザインと実施	28
131	ポルテ金沢館内1階 壁画へのアート装飾の研究	29
132	「CHART project for SDGs」事業に おける珠洲市のデザイン提案	30

122

「これからのエンターテインメント」 新しい感性によるエンターテインメント提案



元 IDEO インダストリアルデザイン・ディレクターで現在 The Division / London & Tokyo 共同設立者

スカパー JSAT と本学が新しいエンターテインメントを創り出すために産学連携で共同研究を実施。メンターには元 IDEO のインダストリアルデザイン・ディレクターの David Tonge をはじめ、世界的に活躍しているデザイナーの詫摩智朗、北川大輔、上町達也が指導にあたる。デザイン開発体制は、製品デザイン専攻の学生 22 名がメンターとチームを組み、各メンターの下で「これからのエンターテインメント」をテーマに研究開発を行った。エンターテインメントの語源として人の心を掴んで離さないという意味がある。現在のビジネスにおいてユーザーエクスペリエンスデザイン (UX) がビジネスの成功要素として大きな役割を担い、その存在はエンターテインメントと日々接近しつつきている。この時代の転換点にもある「エンターテインメント」とは何かを考え「これからのエンターテインメント」の方向性を探った。



SONY 本社にてミーティング



secca inc. 代表の上町達也とのミーティング

[委託者]	
スカパー JSAT 株式会社	
[期間]	
2019 年 4 月～6 月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
河崎 圭吾 教授	デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]	
上山 夏樹	製品デザイン専攻3年
桑島 達彦	製品デザイン専攻3年
後藤 はなこ	製品デザイン専攻3年
笹井 陸	製品デザイン専攻3年
澤本 泉美	製品デザイン専攻3年
篠崎 翔平	製品デザイン専攻3年
菅沼 佑哉	製品デザイン専攻3年
杉田 尚弥	製品デザイン専攻3年
高木 梨帆	製品デザイン専攻3年
高辻 夏	製品デザイン専攻3年
富田 文香	製品デザイン専攻3年
中園 悠佳	製品デザイン専攻3年
野副 双葉	製品デザイン専攻3年
平井 美帆	製品デザイン専攻3年
藤島 佳那子	製品デザイン専攻3年
堀口 真緒	製品デザイン専攻3年
水野 和真	製品デザイン専攻3年
安武 詩織	製品デザイン専攻3年
吉武 信太郎	製品デザイン専攻3年
和田 ざつき	製品デザイン専攻3年
江里口 裕紀	修士課程デザイン科専攻1年
都筑 亮志	修士課程デザイン科専攻1年

[開発日程]	
2019 年	
4 月 1 日	これからのエンターテインメントについて論文制作 (宿題)
4 月 15 日	オリエンテーション (途中は各メンターさんのスケジュールに合わせる)
5 月 24 日	各メンターさんの事務所にて中間チェック
6 月 18 日	最終プレゼンテーション
9 月 21 日～24 日	AXIS にて展示



DESIGN FOR INDUSTRY 代表の北川大輔とのミーティング



AXIS ギャラリーでの公開プレゼンテーションと展示

123

大切な写真に写るスズキの1台

人はクルマやバイクを購入するとき、行きたい場所や憧れの映画で観た一場面やライフスタイルを思い浮かべるなど、ある種のエンターテイメントとして自分が乗っている姿をイメージする。そうしたユーザーの期待感が実際に大切な思い出になった情景を想定して、印象に残る素敵な経験や感動の瞬間にふさわしいモビリティデザインを研究する。今回は、前期授業に組み込み、スズキの現役デザイナー3名をメンターとして迎え、それぞれ学生3～4名のチームで、メンターの裁量でデザインプロセスを進めた。また、同じく家電デザインチームが行うスカパーJSATとの産学連携とコラボして共通テーマを設けて行ったことは新しい体制で、お互い刺激が多く、クオリティの高いデザイン提案につながったと感じる。成果は9月に東京のAXISギャラリーで公開プレゼンテーションと展示を行った。



AXIS 展示会風景



「これからのエンターテイメント」



メンターとの定例ミーティングでデザイン検討



デザイン完、最終決定確認ミーティング

[委託者]

スズキ株式会社

[期間]

2019年4月～12月

[研究体制]

授業導入型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

メンター 結城 康和 スズキ株式会社 四輪デザイン部
 リーダー 水野 和真 製品デザイン専攻3年
 後藤 はなこ 製品デザイン専攻3年
 笹井 陸 製品デザイン専攻3年
 吉武 信太郎 製品デザイン専攻3年

メンター 服部 泰幸 スズキ株式会社 四輪デザイン部
 リーダー 藤島 佳那子 製品デザイン専攻3年
 江里口 裕紀 大学院 製品デザインコース1年
 安武 詩織 製品デザイン専攻3年

メンター 加藤 誠 スズキ株式会社 二輪デザイン部
 リーダー 中園 悠佳 製品デザイン専攻3年
 上山 夏樹 製品デザイン専攻3年
 堀口 真緒 製品デザイン専攻3年

[開発日程]

2019年

4月9日 キックオフオリエンテーション (スズキ浜松本社) メンターとの自己紹介と論文発表、ブレインストーミング
 4月23日 定例ミーティング (コンセプト検討会)
 5月13、14日 フォトショップスケッチ授業
 5月14日 定例ミーティング (デザイン検討)
 5月21、22日 CMFワークショップ
 6月7日 定例ミーティング (デザイン完、最終確認) プレゼン資料、展示用パネル、冊子用原稿データ等制作
 6月18日 完全ラインナップ、学内発表会、授業終了
 8月～9月 デザインブラッシュアップ、モックアップ用3Dデータ作成、モックアップモデル制作、公開プレゼンテーション準備
 9月21日 AXIS 搬入、公開プレゼンテーション
 9月22、23日 AXIS 展示、アテンド



学内最終プレゼンテーション Web 会議システムでスズキ本社と共有



AXIS 公開プレゼンテーション

124

KKR ホテル金沢
ーホワイトロード空間演出計画ー

金沢の冬の風物詩「雪づり」をイメージしたオブジェを「加賀五彩」の光で演出

[委託者]

KKR ホテル金沢

[期間]

2019年5月ー2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

牧野 利香	環境デザイン専攻3年
中田 里桜	環境デザイン専攻3年
鈴木 歩佳	環境デザイン専攻2年
山田 夏海	環境デザイン専攻2年
山野 一真	環境デザイン専攻2年

[開発日程]

2019年

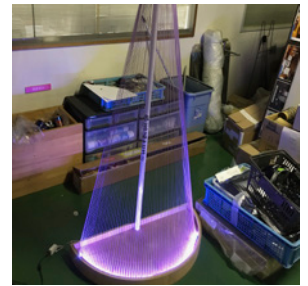
1月	事前説明会と現地視察
5月	スケジュール協議
6月	学内コンベン開始と参加学生への現地説明会
7月	学内コンベの審査と表彰式、プロジェクト始動
8、9月	デザイン案の検討と図面化への協議
10月	図面作成とモデルでの精査
11月	原寸モデルでの検証 施工準備
12月	施工の最終調整と現場作業
12月24日	オープニング

2020年

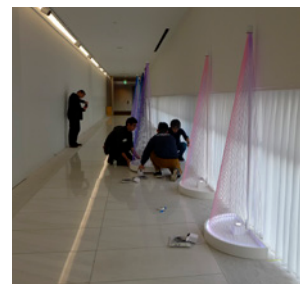
1月、2月	完成ホワイトロードー一般公開
-------	----------------



学内コンベ優秀受賞者からのプレゼンテーション



原寸モデルでの検証



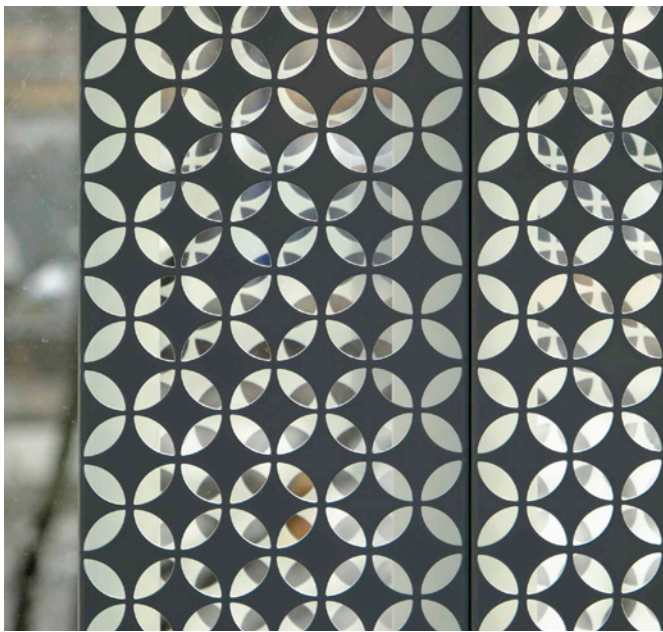
現場設置での微調整



KKR ホテル金沢での表彰式

125

建築部材としての利用を前提とした 有孔折板のデザイン開発



[委託者]	
株式会社日本パーツセンター	
[期間]	
2019 年 5 月—2020 年 3 月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
安島 諭 教授	デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]	
梅田 裕介	環境デザイン専攻 2 年
高多 響	環境デザイン専攻 2 年

防風用に開発された有孔折板が建築部材として転用される事例が増えており、これまで防風性能という強みでシェアを獲得してきたが、建築分野で強みを発揮する新たな製品の研究開発を行い、この分野でシェアを取っていくことを目的とする。

製造方法や実際の施工現場での使われ方などを理解した上で、建築デザインの動向などを調査し、コンセプトを立案した。様々な方向性が考えられるため、アイディアは自由な方向で進め、1/2 スケールで制作したモデルによる最終のプレゼンテーションを行い、試作案を決定した。

完成した試作の評価をチームメンバーで行い、製品化を目指す案を決定した。今後製品化に向けて、製造上の技術的な課題や強度試験による改良など、いくらかの過程を経て数年後に市場投入される予定である。

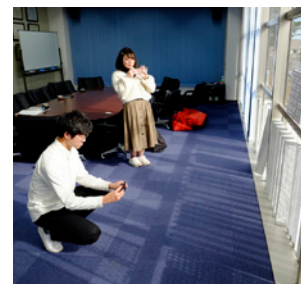


寺井工場見学



最終プレゼンテーションで提案した 31 案のスケールモデル

[開発日程]	
2019 年	
6 月 10 日	オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明
7 月 16 日	寺井工場見学
7 月 19 日	参加者確定・Slack 設置
8 月 8 日	学内チームミーティング、 県内施工物件調査
8 月 20 日	コンセプトリサーチ
8 月 27 日	コンセプトミーティング
8 月 30 日	県内施工物件調査
9 月 6 日	コンセプト抽出・ アイディアミーティング
9 月 17 日	コンセプトプレゼンテーション モデルプレゼンテーション、 方向性確認、ディスカッション
9 月 19 日	第一次試作図面完成
10 月 5 日	第一次試作完成
10 月 11 日	学内候補案ミーティング・ スケールモデル制作
12 月 16 日	最終プレゼンテーション (31 案) 1/2 スケールモデルによる プレゼンテーション
12 月 17 日	試作案決定 (9 案、後に 1 案追加)
2020 年	
2 月 7 日	試作完成・試作確認・評価 今後についてのミーティング



完成した試作を評価する学生メンバー



プロジェクトメンバー
(日本パーツセンターと学生メンバー)

126

住宅における臭いや菌に関する
製品・システムの提案

[委託者]	
三菱電機株式会社 デザイン研究所	
[期間]	
2019年5月—2020年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
村中 稔	教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]	
上山 夏樹	製品デザイン専攻3年
桑島 達彦	製品デザイン専攻3年
笹井 陸	製品デザイン専攻3年
澤本 泉美	製品デザイン専攻3年
篠崎 翔平	製品デザイン専攻3年
菅沼 佑哉	製品デザイン専攻3年
杉田 尚弥	製品デザイン専攻3年
高木 梨帆	製品デザイン専攻3年
高辻 夏	製品デザイン専攻3年
富田 文香	製品デザイン専攻3年
中園 悠佳	製品デザイン専攻3年
野副 双葉	製品デザイン専攻3年
平井 美帆	製品デザイン専攻3年
藤島 佳那子	製品デザイン専攻3年
堀口 真緒	製品デザイン専攻3年
水野 和真	製品デザイン専攻3年
安武 詩織	製品デザイン専攻3年
吉武 信太郎	製品デザイン専攻3年
和田 さつき	製品デザイン専攻3年

住宅における臭い・菌などの空気質の課題に対し、快適な住空間を実現する製品アイデアを創出するための共同研究である。

プロジェクト初期の段階では、家庭の臭いや菌に関する調査や行動観察、インタビューなどに時間をかけ、現状をしっかりと把握するところから始めた。ワークショップにおいては、グループごとに気づきの整理とキーワードを抽出することにより、アイデアを広げるための基盤を築いた。中間発表でコンセプトを決定した後に、現場での実験と検証を重ね、最終提案に向けて改良した。

人・モノ・空間を基本要素に時間軸を意識し、安心して快適に利用でき、新たな体験価値を創造することのできる提案としてまとめた。



ワークショップ



アイデア展開

[開発日程]	
2019 年	
8 月 5 日	プロジェクト開始、オリエンテーション、事前調査依頼
10 月 1 日	調査結果報告、ワークショップ
10 月 15 日	中間発表、コンセプト決定
11 月 8 日	最終プレゼンテーション
11 月 9 日～	報告書作成



ラフモデル検討



最終発表

127

新しい価値を持った メガネフレームのデザイン研究 美大メガネ部活動としての連携事業



IOFT 2019 展示（東京ビックサイト）

[委託者]

一般社団法人 福井県眼鏡協会

[期間]

2019年5月—2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

メガネ部部長 中園 悠佳

メガネ部副部長 澤本 泉美

[Natural]

リーダー 中園 悠佳 製品デザイン専攻 3年
 メンバー 乙部 那未 製品デザイン専攻 4年
 細川 岳 製品デザイン専攻 4年
 内海 春佳 製品デザイン専攻 4年
 菅沼 佑哉 製品デザイン専攻 3年
 安武 詩織 製品デザイン専攻 3年
 古路 萌絵 製品デザイン専攻 2年
 坂元 ゆりの 製品デザイン専攻 2年
 中根 海人 製品デザイン専攻 1年
 宮崎 貴裕 製品デザイン専攻 1年
 安野 花菜 芸術学専攻 1年

[Cute]

リーダー 平井 美帆 製品デザイン専攻 3年
 メンバー 長谷川 皓士 製品デザイン専攻 4年
 宮島 望 製品デザイン専攻 4年

演野 青空 製品デザイン専攻 4年
 和田 ざつき 製品デザイン専攻 3年
 野副 双葉 製品デザイン専攻 3年
 川田 茉有 日本画専攻 3年
 岩井 優典 製品デザイン専攻 2年
 後藤 采蘭 製品デザイン専攻 2年
 田嶋 千寛 視覚デザイン専攻 2年
 篝 佑伽 製品デザイン専攻 1年
 北田 杏実花 工芸科 1年

[Passion]

リーダー 澤本 泉美 製品デザイン専攻 3年
 メンバー 高田 えみ 製品デザイン専攻 4年
 番匠 香澄 製品デザイン専攻 4年
 竹本 頌梧 製品デザイン専攻 4年
 富田 文香 製品デザイン専攻 3年
 堀口 真緒 製品デザイン専攻 3年
 藤島 佳那子 製品デザイン専攻 3年
 鈴木 凱道 製品デザイン専攻 2年
 金丸 侑平 製品デザイン専攻 2年
 鷹野 すみれ 製品デザイン専攻 1年
 山下 聖奈 視覚デザイン専攻 1年

[Cool]

リーダー 水野 和真 製品デザイン専攻 3年
 メンバー 重松 将太 製品デザイン専攻 4年
 松本 姫佳 製品デザイン専攻 4年
 川村 美月 製品デザイン専攻 4年
 高橋 大生 製品デザイン専攻 4年
 笹井 陸 製品デザイン専攻 3年
 吉武 信太郎 製品デザイン専攻 3年
 篠崎 翔平 製品デザイン専攻 3年
 藤井 香菜子 製品デザイン専攻 2年

福井県眼鏡協会との産学連携は今年で18年目。他大学では類を見ない学生主体の「メガネ部」部活動としての受け入れ体制で情報の引き継ぎによりノウハウの蓄積があり、上級生から下級生への専門的なデザイン技術指導もしっかり整えられており、年々研究が深まっている。

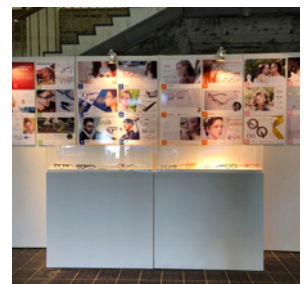
昨年に引き続き、テーマを「自分のかけたいメガネ・あの人にかけてほしいメガネ」と定め、1年生から4年生の混合4チームで取り組んだ。チームは、「Natural 班」「Cute 班」「Passion 班」「Cool 班」でそれぞれのキーワードから新しいコンセプトのアイディアを検討した。49名の学生がメガネ部活動に参加した。本年度は製品デザイン専攻の学生ばかりではなく、芸術学専攻、日本画専攻、工芸科、視覚デザイン専攻の学生も部員として参加した。アイディアブラッシュアップを重ね、3D表現とモデル制作で検証し、最終プレゼンテーションでは39案の提案を行った。チーム賞としてCute 班が選ばれ、最優秀賞は和田ざつきさん、特別賞に中山綾音さんの作品が表彰された。



最優秀賞

工場・会社見学
(谷口眼鏡、水島眼鏡、ファイン、ポストクラブ)

眼鏡産地デザイナーとの意見交換会

最終プレゼンテーション
集合写真

美大祭展示

[開発日程]

2019年

4月～5月 部員動員、チーム分け、イメージボード、アイディア展開
 6月 デザイン制作
 7月9日 学内アイディア検討会
 7月16日 デザイン中間発表会
 8月22日 工場見学（谷口眼鏡、水島眼鏡、ファイン、ポストクラブ）
 午後：産地デザイナーとの意見交換会

8月～9月 最終デザイン制作、モックアップモデル制作
 9月18日 最終プレゼンテーション

10月8日～10日 IOFT2019 視察

11月3日～5日 美大祭展示

12月17日～24日 社会連携活動のあゆみ展出版
(文化ホール)

2020年

3月 報告書まとめ

中学校技術科教材のデザイン研究

中学校における「技術・家庭」の授業は文部科学省の学習指導要領に基づいて実施されており、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる目標が示されている。学習指導要領では4つの技術を学ぶ内容となっており、それぞれに具体的な指導事項が掲げられている。限られた時間内に全てを学ばせるためには、授業計画や教材などに多くの工夫が求められる。

本研究では「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」を学ぶための2種類の教材を対象として、プロダクトデザイン思考を取り入れた新たな技術科教材の開発を試みた。



組み立てた教材を使用



最終発表

[委託者]	
株式会社イナミ教材	
[期間]	
2019年6月—2020年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
村中 稔 教授	デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]	
浮洲 直秀	製品デザイン専攻4年
内海 春佳	製品デザイン専攻4年
乙部 那未	製品デザイン専攻4年
川村 美月	製品デザイン専攻4年
坂上 立朗	製品デザイン専攻4年
重松 将太	製品デザイン専攻4年
高田 えみ	製品デザイン専攻4年
高橋 大生	製品デザイン専攻4年
竹本 頌梧	製品デザイン専攻4年
田中 夢大	製品デザイン専攻4年
長谷川 皓士	製品デザイン専攻4年
瀬野 青空	製品デザイン専攻4年
番匠 香純	製品デザイン専攻4年
平田 陸	製品デザイン専攻4年
細川 岳	製品デザイン専攻4年
松本 姫佳	製品デザイン専攻4年
宮島 望	製品デザイン専攻4年
山本 恵	製品デザイン専攻4年

[開発日程]	
2019 年	
6 月 5 日	オリエンテーション
6 月 6 日	現行の教材製作 / 分析・評価
6 月 7 日	アイデア検討
6 月 11 日	ラフモデル制作
6 月 12 日	中間発表 / コンセプト決定
6 月 13 日	具体的な教材のアイデア展開
6 月 20 日	まとめ
6 月 21 日	最終プレゼンテーション



最終発表



講評

生活者視点を優先し、市場調査 / UD 体験などを通して、より多くの人に使いやすく心地よいパッケージの具体的な表現を創造することを目的とする。今後、市場に展開できブランド価値の向上に貢献する商品として、量産も視野に入れた精度の高いモデルを制作する。

真空成形の技術を使った 新たなユニバーサルデザイン容器の研究



真空成形講習



ライノセラス講習 A



ライノセラス講習 B

[委託者]

馬場化学工業株式会社

[期間]

2019年7月—2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

木下 侑樹	環境デザイン専攻 3 年
高田 陸央	環境デザイン専攻 3 年
山野 一真	環境デザイン専攻 2 年
明石 怜旺	環境デザイン専攻 1 年
上野 航	環境デザイン専攻 1 年
中村 光輔	環境デザイン専攻 1 年

[開発日程]

2019 年

6 月 29 日 学内開催された ASPaC パッケージデザインワークショップに参加
7 月 12 日 ASPaC Awards 2019 エントリー
9 月 30 日 工房にて真空成形講習
10 月 7 日 工房にてプロトタイプ制作
10 月 29 日 ASPaC Awards 2019 参加
12 月 19 日 新メンバー講習
12 月 23 日 市販のゼリー容器にて「開けやすい」、「握みやすい」を理解する調査 1
12 月 27 日 UD 打ち合わせ

2020 年

1 月 14 日 ライノセラス講習
1 月 21 日 ライノセラス講習
2 月 7 日 グラスホッパー研修
2 月 14 日 3D プリンター講習
2 月 21 日 容器形状検討
3 月 2 日 学内プレゼンテーション
5 月 13 日 学外プレゼンテーション



ASPaC ワークショップ

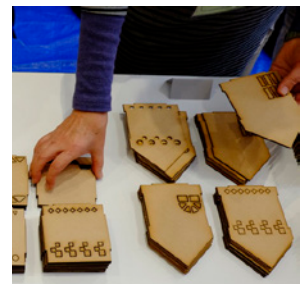
130

石巻レインボーハウス
ワークショップのデザインと実施

石巻レインボーハウスは2011年の東日本大震災で家族を失った子どもたちの心のケアと心の拠り所として活動を行っている。本学の製品デザイン専攻の有志の学生たちと三谷産業で2016年よりボランティアとして「ものづくりワークショップ」を毎年開催してきた。本年度よりこの活動に大学として関わることとなった。

このプロジェクト全体の運営は学生たちが行う。学生たちがワークショップ案を提案し、石巻レインボーハウスを訪れる子どもたちや保護者の方々にアンケートを取り候補案を絞り、ワークショップ開催全体プランの計画、準備、制作、実施までを行うものであり、学生たちにはチームワークとリーダーシップが必要とされ、このプロジェクトの期間中に学生たちの大きな成長が感じられた活動となった。

スタッフを含め40名を超える参加者が子どもたちを中心にワークショップを楽しめている様子が伺え、これまで歴代の学生たちが進めてきた尊い活動の歴史を現場で感じることができた。



制作したワークショップの材料を会場で並べる



石巻レインボーハウスでのワークショップの様子

[委託者]

三谷産業株式会社

[期間]

2019年8月—2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

市川 真莉 製品デザイン専攻2年
名和 かのん 製品デザイン専攻2年
竹廣 三四郎 製品デザイン専攻1年
廣瀬 由羽 製品デザイン専攻1年

[開発日程]

2019年

7月31日 オリエンテーション
チームメンバー顔合わせ、昨年度までの実績報告、Slack設置

8月27日 三谷産業とのキックオフミーティング
スケジュール・条件などについての確認

8月24日 ワークショップアイデア学内プレゼンテーション

9月3日 ワークショップ提案書作成

9月10日 提案候補案決定

9月28日 石巻レインボーハウス訪問
会場確認・プレゼンテーション

9月29日 石巻被災地視察

10月5日 フライヤー案・企画書提出

10月11日 ワークショップ材料手配・制作

10月25日 ワークショップ参加人数決定
参加者からの希望案連絡

11月2日 ワークショップ完成図、作り方イラスト作成

11月9日 ワークショップ本番

11月29日 ワークショップマニュアル制作



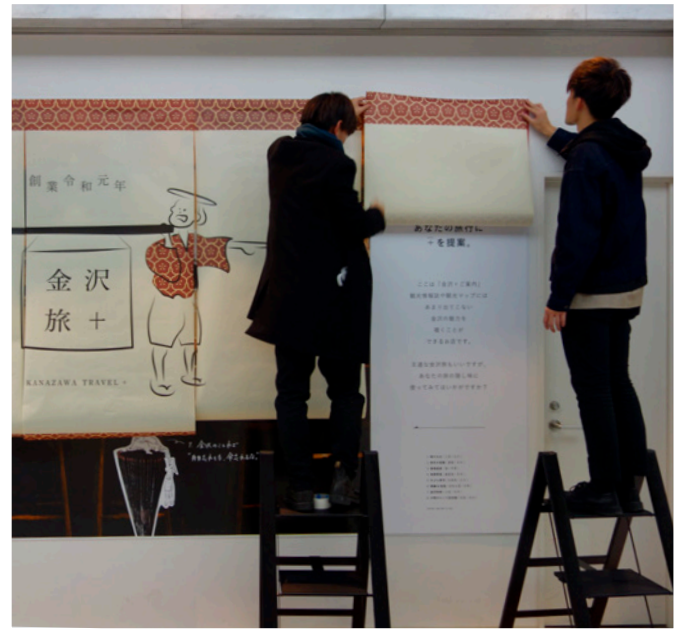
ワークショップに参加した皆さん



ワークショップの案内ポスター

話題を集めポルテ金沢への集客力を高めブランド価値の向上に貢献する参加型ポスターを制作した。

ポルテ金沢館内1階 壁画へのアート装飾の研究



【委託者】

株式会社ポルテ金沢

【期間】

2019年9月—2020年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

木下 侑樹 環境デザイン専攻 3年
明石 怜旺 環境デザイン専攻 1年
上野 航 環境デザイン専攻 1年
中村 光輔 環境デザイン専攻 1年

【開発日程】

2019 年

7月23日 ポルテ金沢にて
オリエンテーション
7月30日 学内打ち合わせ 1
9月4日 学内打ち合わせ 2
9月6日 ラフデザインプレゼン 1
10月4日 ラフデザインプレゼン 2
10月28日 ラフデザインプレゼン 3
11月25日 学内打ち合わせ／学内仮設置
12月3日 ポルテ金沢にて仮設置
12月23日 学内打ち合わせ 4
12月24日 最終デザイン打ち合わせ

2020 年

1月22日 ポルテ金沢にて
最終デザイン設置



仮設置



プロトタイプ確認

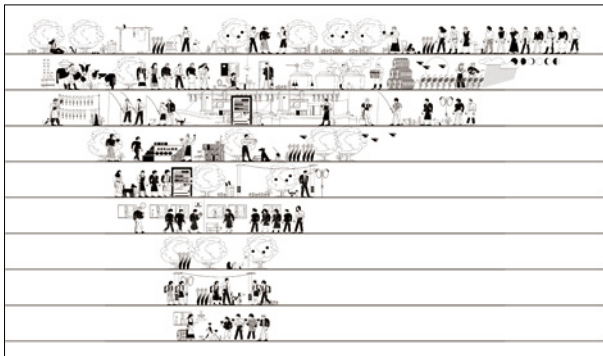
132

2019年5月より石川県内の各地域とSDGsの普及啓発活動を展開している「CHART project® for SDGs in ISHIKAWA」として、新たに珠洲市の作品を制作することになった。

今回の作品は、珠洲市の「環境・社会・経済」に関する3つの社会課題のグラフを元に、視覚デザイン専攻の学生3名が制作に取り組んだ。

完成後の作品は、珠洲市とのイベントやSDGsの普及啓発活動の場で今後展示する予定。

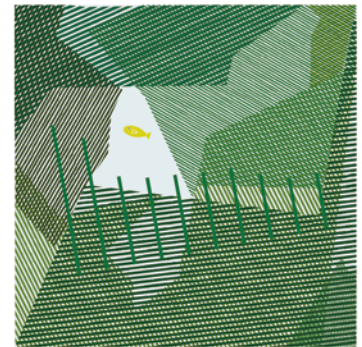
「CHART project for SDGs」事業における珠洲市のデザイン提案



人工ヒラミッド（渡辺 菜緒）



観光客（日下部 亜希）



藻場の面積（竹村 美紅）

【委託者】

株式会社 テレビ金沢

【期間】

2020年1月～3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

日下部 亜希

視覚デザイン専攻3年

竹村 美紅

視覚デザイン専攻3年

渡辺 菜緒

視覚デザイン専攻3年

【開発日程】

2020年

1月27日 珠洲市ご担当より
オリエンテーション
1月30日 デザイン案検討開始
3月16日 データ送付
3月25日 データ出力完成
3月29日 美大学内にて取材
5月中旬頃 web等にて公開予定



オリエンテーション（珠洲市より）



取材撮影（データ説明）

A04 >> I01

A04	北陸銀行 金沢中央支店における作品展示	32
B04	問屋まちスタジオ プロジェクト	33
E04	地元企業との就職情報交換会	34
G04	志賀町・絵画塾 ～美術教育による地域連携～	35
I01	未来のリノベーション ～環境デザイン専攻 地域連携授業～	36

A04

本企画は本学と北陸銀行の連携協力に関する協定に基づき、学生の研究成果の発表の場を提供するとともに文化芸術を地域社会に発信する機会とするものである。

銀行内の応接室や会議室などに、本学修士課程絵画専攻の作品を展示することで、職場に潤いを与えるとともに、行員はもとより来客等にも絵画の鑑賞の場を提供し、豊かな芸術文化を味わう機会となっている。

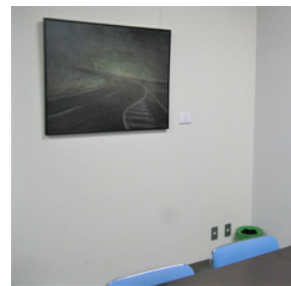
北陸銀行 金沢中央支店における作品展示



会議室風景 工藤 彩 「礎」



銀行内風景



館田 美玖 「3月某日」

〔委託者〕

株式会社 北陸銀行 金沢中央支店

〔期間〕

2019年11月—2020年11月

〔研究体制〕

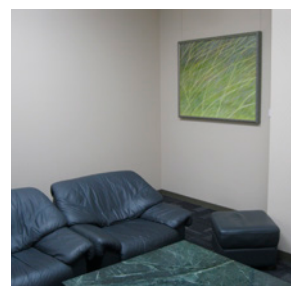
プロジェクト型

〔担当教員〕

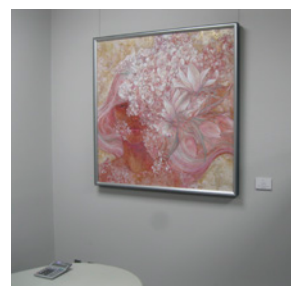
石田 陽介 教授 社会連携センター長
松崎 十朗 教授 美術科日本画専攻
三浦 賢治 教授 美術科油画専攻

〔参加学生〕

工藤 彩 修士課程絵画専攻日本画1年
中村 優希 修士課程絵画専攻日本画2年
館田 美玖 修士課程絵画専攻油画1年



館田 美玖 「わからないということ」



中村 優希 「想い」

B04

問屋まちスタジオ プロジェクト

これまでの8年間に亘る問屋まちスタジオの活動内容は、「アトリエ」として、制作・発表の場として広いスペースを活用し、本学の卒業生、修了生を中心に将来が囑望される作家の制作アトリエとして提供され、創作へのサポートを行っている。「ギャラリー」として、企画展示から本学のアートプログラムや研究成果報告の展示発表まで、自由で実験的な空間として機能している。「アートプロジェクト」として、問屋町に関わる様々な企画や事業を実施して、全国的にもユニークな問屋町の特性を生かし、経済活動の面と芸術活動の面の両立から、この地域の人々がより良く生きるための環境づくりに積極的に関わっている。「アーティスト・イン・レジデンス」として、長期滞在制作ができるスペースを確保し、国内外のアーティスト、クリエイター、キュレーターなどの交流拠点となっている。今後の「問屋まちスタジオ」での大学・企業・作家・地域との連携による活動が地域社会の文化資本を醸成し、その基盤の上に新規の文化事業が生まれ、若者定着の促進やアートによる国際化を伴った地方創生の一翼が担えることをめざしている。



夏休み子どもワークショップ



第2回オープンスタジオ

[委託者]

問屋まちスタジオ運営協議会

[期間]

2019年4月—2020年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻
中瀬 康志 教授 美術科 彫刻専攻
真鍋 淳朗 教授 美術科 油画専攻

[参加学生]

岡松 美帆 工芸専攻3年
間瀬 春日 工芸専攻3年
南 唯乃 油画専攻4年
村田 優大 彫刻専攻修士1年
菊池 美咲 油画専攻修士2年
山岸 耕輔 油画専攻修士2年
竹内 佑未 油画専攻修士3年
菊谷 達史 油画専攻修士課程修了生
下出 和美 油画専攻修士課程修了生
武田 雄介 油画専攻修士課程修了生
谷本 梢 油画専攻修士課程修了生
佐直 麻里子 日本画専攻修士課程修了生
村住 知也 油画専攻卒業生
今尾 拓真 実習助手
門阪 翔大 実習助手

[制作アトリエ利用者]

菊池 美咲 油画専攻修士2年
竹内 佑未 油画専攻修士3年
菊谷 達史 油画専攻修士課程修了生
下出 和美 油画専攻修士課程修了生
武田 雄介 油画専攻修士課程修了生
谷本 梢 油画専攻修士課程修了生
佐直 麻里子 日本画専攻修士課程修了生
今尾 拓真 実習助手
門阪 翔大 実習助手

[開発日程]

2019年

3月26日～4月26日 真鍋淳朗「生々流転」展示
4月27日 金沢ワンピース倶楽部
第10回勉強会
講師：真鍋淳朗
6月28日 第1回オープンスタジオ
8月17日 夏休み子どもワークショップ
講師：村住知也
10月1日 第2回オープンスタジオ
11月5日～12月4日 アーティスト・イン・レジデンス— Natalia Papaeva と川松康徳

11月16日 Dance Well @問屋まちスタジオ

12月3日 ライブパフォーマンス
Natalia Papaeva の学生との共同パフォーマンスと「waiting」
参加学生：
岡松美帆(工芸専攻3年)・村田優大(彫刻専攻修士1年)・間瀬春日(工芸専攻3年)・南唯乃(油画専攻4年)

12月6日～22日

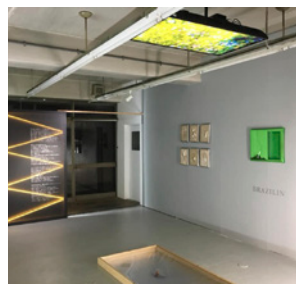
展覧会「section1：問屋まちスタジオ「アーティスト・イン・レジデンス 2019」成果展 Section2：Narrativisual:b」
青い星とアボカド

2020年

1月8日 第3回オープンスタジオ
子どもワークショップ
2月24日 「卵から玉子でワクワク!〜割って・作って・飾って・味わって〜」
3月21日～29日 山岸耕輔個展「OVERWORK」
参加学生：山岸耕輔(油画専攻修士2年)



Natalia と学生との共同パフォーマンス



展覧会「青い星とアボカド」

E04

金沢市と学生の若者定着の促進等を目的とする連携協定を具体化するため、将来の就職を見据えた意見交換を行う場として、地元企業との就職情報交換会を開催し、就職活動報告会では、地元企業に勤める美大OBから就職活動や現在の仕事のやりがい、地元で就職を決めた理由などを披露した。

また、交換会を契機に、関心の高い企業の理解を一層深める場として、参加頂いた企業に、1DAYインターンシップを実施していただいた。

地元企業との就職情報交換会



[連携先]

金沢市役所

[期間]

2019年7月28日
金沢東急ホテル
2020年2月1日
金沢東急ホテル

[担当教員]

キャリア支援室長

石田 陽介 教授

キャリア支援室担当

よしだ ぎょうこ 准教授 美術科日本画専攻
高橋 治希 准教授 美術科油画専攻
芝山 昌也 准教授 美術科彫刻専攻
神谷 佳男 教授(前期) 美術科芸術学専攻
水野 さや 准教授(後期) 美術科芸術学専攻
鈴木 康雄 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻
角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻
足立 真実 准教授 工芸科
村山 祐子 准教授 大学院美術工芸研究科
ファッションデザインコース

[7月28日 参加企業]

(株)イーブ
カジナイロン(株)
(株)グランゼーラ
小松マテール(株)
(株)柴舟小出
伸見化学(株)
高桑美術印刷(株)
津田駒工業(株)
(株)テキスタイルデポ
ニッコー(株)
三谷産業(株)
宮下印刷(株)
(株)森八
ヨシダ宣伝(株)
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
金沢市役所

[2月1日 参加企業]

安達写真印刷(株)
(株)オートメ技研
(株)シービーユー
(株)高桑美術印刷
泰和ゴム興業(株)
(株)玉家建設
(株)テキスタイルデポ
(株)テルズ&クイン
ニッコー(株)
(株)PFU
北陸火工(株)
三谷産業(株)
(株)森八
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学
金沢市役所



G04

志賀町・絵画塾

～美術教育による地域連携～



制作風景

[委託者]

志賀町教育委員会

[期間]

2019年6月—11月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

大森 啓 教授 美術科油画専攻
石崎 誠和 准教授 美術科日本画専攻

[参加学生]

小松 史弥 修士課程絵画専攻油画1年
四本 優南 修士課程絵画専攻油画1年
富崎 美結 修士課程絵画専攻油画1年
館田 美玖 修士課程絵画専攻油画1年
田中 やよい 修士課程絵画専攻日本画1年
北川 由紀恵 日本画専攻助手

「絵画塾」は本学の教員・学生が志賀高校を会場として中・高校生に絵画指導を行うもので、志賀高校の活性化と地域へのアピールを目的として企画された。平成26年に始まったこの中高大の連携事業は、一昨年「志賀町との連携に関する協定」の一環として位置付けられ、現在に至っている。

今年度もこれまでと同様6月から11月まで月1回（土曜日）、計6回実施した。参加者は回によって異なるが、おおよそ20名程度で、これも例年通りの状況である。参加者の強い意欲に応えるため美大ならではの専門性を織り込みながらも、あくまでも分かりやすい課題設定を心掛けた。指導には各回2名の美大生が当たり、その親しみのある丁寧な対応は毎回好評であった。

今年度は初めての試みとして、生徒の作品を「志賀町文化祭」（11月3・4日、富来活性化センター）にて展示した。地域の方々にも好評であったと聞くこの取り組みを今後も継続したい。



第2回 「パステル画」



第4回 「イメージ画」

[実施日程]

2019年

- 6月22日 第1回 「パズル制作」
投影図法の立方体を切り抜き、立体描写の基礎と絵画の不思議さを体験する
- 7月6日 第2回 「パステル画」
中学校で使うことの少ないパステルで、色彩の美しさを味わう
- 8月6日 第3回 「木炭デッサン」＋美大見学
石膏像の描写を通して、形のポイントを押さえる方法を学ぶ
- 9月7日 第4回 「イメージ画」
写生した花の形を借りて、偶然できた色の美しさを利用する
- 10月12日 第5回 「写生」
視覚だけでなく、触覚・嗅覚・味覚など様々な経験から対象に迫る
- 11月16日 第6回 「写生」
様々な距離と角度から観察し、微妙な色彩や質感の描写を学ぶ



志賀町文化祭



志賀町文化祭

101

未来のリノベーション

～環境デザイン専攻 地域連携授業～

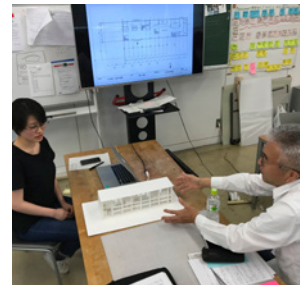
今回のプロジェクトは、環境デザイン専攻 3 年生の演習授業の一環として平成 25 年から実施している。授業の目的は「金沢の街から学び、街に還す」という基本方針のもと、教員と学生が共に教育・研究を推進して、「人」から考える「場」づくりを軸に様々なデザイン分野を横断した創造力を育成しようとするものである。具体的には、専攻 5 名の教員の専門領域を活かしながら授業を推進することとその専門性を連携させることで、学生のモチベーションを高め、思考を深めることで広く社会に発信することを目指している。これまでの実績としては、市内の施設や広場を題材にその活用やそこでの体験価値を高めるような空間を創造してきた。また 6 年間取り組んできたテーマは、金沢市役所の関連施設のリニューアルや中心市街地の広場や施設の活性化などである。今回初めて民間企業として三谷産業株式会社の施設を題材に授業計画を立案することで、より実社会との繋がりやリアルな提案に結びつけられるようなプロジェクトとして推進することができた。



最終報告会（柳宗理記念デザイン研究所）



現地調査



建築計画検討会

[委託者]

三谷産業株式会社

[期間]

2019 年 4 月～8 月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

坂本 弘之 教授 デザイン科環境デザイン専攻
 角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻
 鏑 隆弘 教授 デザイン科環境デザイン専攻
 畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻
 北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

荒木 拓都 環境デザイン専攻 3 年
 飯山 春風 環境デザイン専攻 3 年
 伊藤 唯 環境デザイン専攻 3 年
 宇井 千裕 環境デザイン専攻 3 年
 河野 里咲 環境デザイン専攻 3 年
 神林 優志 環境デザイン専攻 3 年
 木下 侑樹 環境デザイン専攻 3 年
 下尾 春花 環境デザイン専攻 3 年
 高田 陸央 環境デザイン専攻 3 年
 谷 一輝 環境デザイン専攻 3 年
 通山 ひなの 環境デザイン専攻 3 年
 中田 里桜 環境デザイン専攻 3 年
 西澤 歩 環境デザイン専攻 3 年
 野村 夏月 環境デザイン専攻 3 年
 箱木 絢音 環境デザイン専攻 3 年
 広川 真衣 環境デザイン専攻 3 年
 本多 侯一朗 環境デザイン専攻 3 年
 牧野 利香 環境デザイン専攻 3 年
 松野 愛以 環境デザイン専攻 3 年
 餅田 瞳 環境デザイン専攻 3 年
 柳原 菜々海 環境デザイン専攻 3 年

[開発日程]

2019 年

4 月 8 日 協定締結
 4 月 15 日 現地調査
 4 月 26 日 敷地計画検討会
 5 月 29 日 建築計画検討会
 6 月 21 日 インテリアデザイン検討会
 7 月 12 日 什器デザイン検討会
 7 月 30 日 空間グラフィック検討会
 8 月 5 日～6 日 学内報告会
 8 月 7 日 最終報告会
 於 柳宗理記念デザイン研究所
 8 月 8 日～12 日 学外展示会「未来のリノベーション リノベーションの未来」
 於 柳宗理記念デザイン研究所



什器デザイン検討会



最終報告会

社会連携担当理事 石田 陽介
社会連携センター長

事務局次長 布島 宏胤

地域連携部門
部門長 池田 晶一
芝山 昌也

産学連携部門
部門長 畝野 裕司
加賀城 健

知財管理部門
部門長 安島 諭
鈴木 浩之

事務局 宇於崎 竜介

特任研究員 野村 昌史

[報告書制作]

編集・アートディレクション 野村 昌史

編集協力・版下製作 株式会社 斉藤慶デザイン研究所

印刷 株式会社 山田写真製版所

発行 公立大学法人 金沢美術工芸大学
〒920-8656
石川県金沢市小立野 5 丁目 11 番 1 号
TEL 076-262-3531
FAX 076-262-6594
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

発行日 2020 年 6 月